

旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会 基本構想（素案）【概要版】

国が開催主体となり国際機関が認定する博覧会の招致に向けた横浜市の構想（素案）

平成29年11月2日
第5回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会資料

基本理念

- 大規模災害、気候変動による異常気象、飢餓等、地球環境への対応は人類の共通目標
- 国際的な取組がなされているが、地球環境の限界に踏み込みつつあり、国、個人の枠を超えて大きく社会の舵を切ることが必要
- 日本は少子高齢化により社会構造の大転換期にあり、新たな暮らし方や経済発展の鍵として未来環境へ対応

- 持続可能な未来社会を構築するために、世界・日本の自然共生の叢智を結集・共有し、地球環境の課題解決を先導
- 豊かさの量を求める社会の限界を認識し、豊かさの質を深める社会へ能動的に転換する持続可能な発展モデルを、花・緑・農をシンボルとし、横浜・上瀬谷から国内外に発信

事業展開の考え方

■展開の考え方

- 世界・日本の叢智と多くの人々が横浜・上瀬谷に集まり、交流・触発し、新たな行動や事業を、世界・日本に共有・展開する時代の転換点にふさわしい園芸博覧会
- 都市緑化よこはまフェアの成功をステップとして、横浜らしいガーデンシティを国内外に示し、郊外部の活性化拠点としての上瀬谷の整備とあわせて、存在感のある選ばれる・住み続けられる都市づくりに繋がる園芸博覧会
- 大きな時間軸の中でとらえ、市民・企業・団体等の参画の幅を広げ、より深く関われる機会を創出・継承



基本的な事項

■開催組織

開催主体である国が認定する法人等

■開催場所

旧上瀬谷通信施設

■開催年及び開催期日

2026年4月～9月

■入場者規模

1,500万人以上を想定

■会場規模

80～100haを想定



開催意義と効果

国際的な視点

- 国連SDG s（持続可能な開発目標）の取組を加速・定着させ、2030年での達成に貢献
- 日本の優れた自然共生の叢智、風土に支えられた文化、産業技術の地力、観光の魅力を世界に発信
- 多くの人々が集まり・交流することによる多文化共生や友好平和の国際交流を推進

花緑・博覧会の視点

- 世界の花緑と日本の華道や庭園等の高い芸術文化に触れる機会と、先端技術の導入による新たな分野の地域活力と共存を創造
- 自然環境を活用したヘルスプロモーションや農福連携等にみられる花緑の新領域構築
- 花き園芸・造園環境技術の新展開や景観づくりの新たな取組の実践

日本・横浜・上瀬谷での視点

- 国内外の来訪者により観光立国や首都圏の観光MICEの推進、地方創生に大きく貢献
- 高水準の情報通信等による次世代の社会環境や第4次・第5次産業革命を先導
- 開港都市でもある国際都市横浜の魅力を世界に発信し、地域経済を活性化、都市ブランドを向上
- 首都圏でも貴重な広大な平坦地である上瀬谷の拠点整備により郊外部の活性化モデルとして、圏域振興を牽引

2026年開催の視点

- 国連SDG sの目標年に向けた重要期間にあり、確実な達成と未来目標に寄与
- 国内の人口減少と経済縮退の顕在化に対し、公民連携による持続的なコミュニティと産業創発・観光振興による経済成長を提示

■メインテーマ



豊かさを深める社会への契機・深化に向けて

多様性や寛容性のもとで心の豊かさを深める感性・価値観を「ハピネス」と表現し、視覚だけでなく、時の移り変わり、人の賑わいなど、空間・時間の総体を「風景」と位置づけ、緑や花は、生命と躍動、驚きや歓び、やすらぎや癒しなどの象徴

輸送・宿泊計画、環境共生

■輸送計画

- 周囲の道路網や鉄道路線を活用し、多方面からのアクセスを確保
- 交通緩和策として、自家用車での来場者抑制、将来の土地利用計画との整合性を図りアクセス道路を改善
- 新たな交通は、将来の土地利用計画と合わせて検討

■宿泊計画

- 東京2020オリンピック・パラリンピック大会等で増室される横浜市内の宿泊施設を中心に、インバウンド観光等を通じて首都圏・国内への波及効果を拡大
- 国際園芸博覧会の新たなアクティビティとして、参加・滞在型となる宿泊可能性を検討

■環境共生

- 自然との共生やグリーンインフラ等を会場全体に波及させ、先進的なモデルとして実現
- 環境を意識し、気づきが行動につながる取組を展開

■事業コンセプト

○普遍性・先進性の体感

実物・本物と最先端の科学技術や芸術が融合するエデュテイメントと感動

○多様性・寛容性の共感

多彩な個と幅広い衆が織りなす躍動的な時間、心地よい空間との出会い

○シェア・リンクの実感

世界中の人の対流、時間と空間の共有が育む、みんなでつくる価値と歴史

■事業コンテンツ

国際園芸博で日本・横浜の魅力・活力を象徴する要素



横浜・上瀬谷

- 横浜市は、373万人の国際都市で1859年の開港以来、園芸貿易をはじめ、産業や文化の交流拠点。ビジネス集積地と緑あふれるニュータウンを擁し、多彩な市民力と観光MICE、文化芸術創造、環境未来都市、都市緑化よこはまフェアの成功等でも存在感
- 2002サッカーと2019ラグビーのワールドカップ決勝、世界トライアスロン、ヨコハマトリエンナーレ、さらには2020オリンピックの野球等の舞台
- 旧上瀬谷通信施設は横浜市の北西部にあり、2015年に米軍から返還された歴史。首都圏でも貴重な242haの広大で平坦、高速道路網に近接した郊外部の新たな活性化拠点として高いポテンシャルを有する地域

開催経費

<試算額> 過去の博覧会を参考に、会場面積80～100haとした現時点での試算額

会場運営費320～360億円程度 ※入場料等の収入により支出

会場建設費190～240億円程度 ※国、地方公共団体、民間の資金が原則
公民連携等により縮減